

幼児教育長期派遣通信 1 学期号

発行 令和元年9月4日

府中市立旭小学校 青山 俊美（派遣園：広島大学附属三原幼稚園）

はじめに 4月から幼児教育長期研修生として、広島大学附属三原幼稚園に派遣され、体験を通して、幼児教育の推進や幼保小接続について学んでいます。園内と園外で学んだことを紹介します。

1 1学期の研修内容

(1) 園内研修で学んだこと

①遊びが中心！5歳児の一日

8:30 登園	好きな遊びを見つけて遊ぶ	10:30頃 片付けをする	まとまった活動や遊び	11:30頃 弁当を食べる	好きな遊びを見つけて遊ぶ	13:30 降園	
<ul style="list-style-type: none"> 水やり 朝の挨拶や支度（ままごと、料理作り、円形ドッチボール、縄跳び、ケイドロ、砂場での遊び、虫探し など） ウサギ当番 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊び （ままごと、料理作り、円形ドッチボール、縄跳び、ケイドロ、砂場での遊び、虫探し など） 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が出した物だけでなく、園全体の片付け 手洗いうがいお茶 丸くなって座る 絵本を読む 	<ul style="list-style-type: none"> 当番が提示した活動をみんなで楽しむ （歌、手遊び、リズム遊び、しりとりなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 全体活動（水遊び、ボール遊び、絵を描く、野菜の収穫 など） 	<ul style="list-style-type: none"> 当番活動（台ふき、弁当やお茶運び） 机椅子の準備 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊び 弁当片付け 歯磨き 好きな遊び 	<ul style="list-style-type: none"> 持ち物の用意 当番の引き継ぎ 歌や踊り 一日の振り返り

一日のほとんどが遊びで占められています。決まった時刻に決まった活動をするのではなく、幼児のその日の実態、活動の様子や意識・リズムに寄り添い、ゆったりと過ごしています。教師は、幼児の様子を見取り、臨機応変に対応しながらも、幼児に見通しをもたせ、主体的に行動させるように支援しています。

②「遊び」が「学び」「学び」が「遊び」

桜の枝を這っていた毛虫を、遊具に登って捕ろうとしています。「あっ、こっちにもおった」とたくさん捕りました。「これが目かな。目が大きくてかわいい」「手にのっけるとくすぐったい」と友達と話していました。

自然の面白さや不思議さを感じ取っている。



感じる・
気付く力



うごく力

バランスよく乗った台から、腕を前後に大きく振り、思いっきりジャンプして遊具にぶら下がります。落ちてしりもちをついても、楽しいようで、何度も何度も繰り返していました。

やりたいことに向かって、心と身体を思いっきり動かしている。

「ソーダー味のキラキラキャンデーだよ。おいしいよ」紙やテープを割り箸に巻いて作りました。ソーダー味とそのさわやかさを表現するために、素材を選んで作っていました。

自分の作りたい物を作るために、物や道具を工夫している。



考える力



やりぬく力

のぼり棒の葉っぱの目印をタッチしました。次は一番上まで登ろうと何度も何度も挑戦しました。

何度も繰り返し、粘り強く取り組んでいる。



人とかかわる力

砂山をダンボールに乗って滑り降ります。滑りにくくなり、友達にお願いして押ししてもらいました。「押しして押しして」「次は、私が押ししてあげる」と交代しました。

自分の思いや考えを伝え、相手の思いを考えている。順番やきまりを守っている

「遊び」を通して、生きるために必要な「資質・能力」を身に付けています。幼児期は人格形成の基礎を培う時期です。広島県では上記の5つの力の育成を目指しています。

（「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プラン）



自立

「おはようございます」と元気にあいさつ。それから水やり。シール帳にシールを貼り、手紙を2枚重ねて半分に折ってカバンに入れ、水筒や歯ブラシの片付けを済ませます。帽子をかぶって「行って来ます」と元気よく外遊びに出かけて行きます。

自分のことは自分ですることや、基本的な生活習慣が身に付いている。

③こんなこともできる

弁当の準備や片付けはグループで行います。「〇〇ちゃん運ぼう」と声を掛け合い、机をベアで出します。台ふきで机を拭き、弁当とコップを出して全員が揃うまで待ちます。

ベアやグループなど、集団で協働して活動している。



役割と責任

当番は毎日4人です。ウサギの世話、まとまった活動の提案、お茶の用意やあいさつの号令などです。ウサギの世話は、ウサギの糞を掃き、水を流してゴシゴシこすり、小屋をきれいにしたら、餌をやります。

クラスや幼稚園の代表として、役割を果たしている。人前でも堂々と発言できる。



助け合い

自分一人でする活動や、友達と協力してする活動が毎日あります。やれた、できたという経験が積み重なり、自信や自尊心向上へと繋がっていきます。幼児期は好奇心旺盛で、何でもやってみたくて仕方ありません。

(2) 園外研修で学んだこと

私は今まで、「なぜ『スタートカリキュラム』が必要なのか」と思っていました。幼児教育について学んでいくうちに、「スタートカリキュラム」の必要性を感じるようになりました。子供は幼稚園・保育所・こども園から小学校へ入学する時、違った存在になるわけではありません。しかし、幼稚園・保育所・こども園と小学校では生活や教育の方法が異なっています。そこで、子供たちの発達や学びを円滑につなぐ必要があります。

つ・な・ぐ・スタートカリキュラム

	幼児教育	スタートカリキュラム	小学校教育
学 び	学びの芽生え 遊びを中心とし、「ひと・もの・こと」と関わりながら総合的に学ぶ	スタートカリキュラム	自覚的な学び 各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
目 標	方向目標		主に到達目標
生 活	子供の生活リズムに合わせた一日の流れ（一日単位）		時間割に沿った一日の流れ（45分単位）
教師等の存在	環境の一部としての保育者 ・子供の活動の支援や環境の再構成等が中心		授業者としての教師 ・教育活動の遂行が中心

小学校は、ゼロからのスタートではない。
 学びをつなぐ！生活をつなぐ！
 身に付いた力を発揮させながら、
 新しい環境にも慣れ、自信をもって
 小学校生活をスタート！
 主体的に学習に移行！
 自らの力で成長！

2 研修を通して

園内研修では、子供は主体的に遊ぶことを通して、たくさんのことを学んでおり、教師は、一人一人の「今の姿」を受け止め、その子に合った発達を促すよう、環境を整えたり、支援をしたりしていることが分かりました。

園外研修では、子供が幼児期の学びを生かし、主体性を発揮し、成長、自立するためには、スタートカリキュラムが大きな役割を果たすことが分かりました。

3 まとめ

子供の学びや生活をつなぎ、幼児教育と小学校教育の良さを生かした実用的なスタートカリキュラムを作成するために、更なる幼児理解と児童理解や研修に努めたいです。

乳幼児教育支援センターから

子供達は、小学校に入学するまで遊びや生活を通してたくさん学んでいます。その育ちや学びをつなぐものがスタートカリキュラムです。入学した児童が、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるように、スタートカリキュラムの充実が求められています。学校全体でその意義や考え方、大切にしたいことなどを共通理解することが大切です。